

二条中通信

第 6 号
二条中学校
H20.5.1
文責:直江秀樹

【学校教育目標】学ぶ楽しさを実感し、夢を持ち夢を実現するために努力する生徒の育成

修学旅行は思い出いっぱい



2日目。天気予報では午前中雨。昨日の夕食も、雨のために野外バーベキューはなくなりました。予定していたグループ別体験活動ができるかどうか心配しながらの朝食。宿舎の方にお礼を言って、モトブリゾートホテルを出発。海洋博覧会記念公園に到着したのは、午前9時前。風は吹き渡り、青空が広がり、目の前の海も青くきらめく。天気予報をひっくり返して晴れ。修学旅行はすばらしい展開となってきました。広大な敷地、初夏を感じさせる日差しに、緑の木々がまぶしい。世界一を誇る巨大なアクリル水槽を設置した「美ら海水族館」は入館するなり歓声があがる。サンゴの海。イノー（沖縄の方言。珊瑚礁が囲んでできた池のような場所）の生き物にタッチ！ 見たこともないような「黒なまこ」や「巨大ヒトデ」がいっぱい。おそろおそろ手にとって見る事ができました。 ヒトデにタッチ



サンゴの海や熱帯魚の色彩に目を奪われます。たくさんの修学旅行生がメモをとりながら、はしゃぎながら、水槽にぴったりくっついて観察しています。それにしても、珍しい生き物が海にはたくさんいるものですね。圧巻は、超巨大水槽に悠然と泳ぐジンベイザメ。その姿を見ていると、水槽が急に大海原になったようで、差し込む太陽光線が浮き立つ水泡にきらめきを与えています。思わず立ち止まりカメラを向けると、もう1匹でかいジンベイザメが登場。と、見る間にもう1匹。なんと3匹もいるから驚きました。水槽のトンネルをくぐる時、頭上を通るジンベイザメがこれほど大きな生物だったのかと改めて驚きました。マンタが優雅に泳ぐ姿も、精悍な顔も忘れられないですね。誰だったか、とげとげのイセエビを見て「おいしそう」と言ってました。豊かな生き物をはぐくむ海に驚くことしきりです。あっという間の1時間30分でした。

昼食は、琉球村でタコライス。その後、各グループに分かれて体験学習です。

紅芋掘りとチップス サンニン パイン収穫とジャム作り 美ら海
観察とクラフトシーカヤック 海中観察（シュノーケル）

雨の心配はなくなったけれど、風の影響があり現地に行くまでどうするか判断が難しかった。君たちの普段の行動が良かったのか、ぎりぎりの段階でOKができました。すべての体験活動ができました。風の強い海に出たメンバーもインストラクターの先生の指導で海に潜り楽しめたそうです。ウエットスーツを着けていると水の冷たさは気にしない。浜辺の貝殻やサンゴで自分の好みの宝物を作ったりしてお土産ができました。パインジャム作りやサータアンタギー、ムチー（サンニンの葉で包んだちまき）作り、紅芋のチップスは好評でした。それぞれが、地元の方の親身な指導で、またとない体験をつむことができました。しかし、時折、地面を揺るがすような爆音が耳をつんざきます。米軍戦闘機が空を切るときは飛び上がるほどの衝撃です。数日前に、この戦闘機が夜明け前に飛び沖縄島民の安眠を侵害すると抗議する報道がありました。昼間でもこんなにすごい音。戦争は63年たってもあちこちに問題を投げかけています。

午後5時過ぎ。今度は首里城見学。守礼門から首里城に続く道をガイドさんに案内してもらいます。「礼を重んじ守る」という琉球文化の伝統は、交流する人々を大切にしたのです。正殿に向かうと鮮やかな朱色の柱と建物。朱瓦の再現については、NHKの「プロジェクトX」でも紹介されました。まだ深い青さが残る空に、琉球王朝の面影を彷彿とさせるたたずまいは見事です。獅子や金龍の意匠が施され、その昔の工芸・文化がすばらしかったことを物語っています。充実感をもってパシフィックホテルへ移動しました。



サータアンタギー作り(上)
パインジャム作り(下)